

詰将棋全国大会レポート（3）

全日本詰将棋連盟全国大会第三回

1965年5月

東京都 七條兼三邸にて

参加者 90名

詰将棋パラダイス 1965年6、8月号より

全日本詰将棋連盟 全国大会^{第三回}開かる

☆ところ 東京上野恩賜公園内

七條兼三氏邸

☆とき 五月八日 前夜祭

五月九日 大会

☆顔を出した人 別項の通り

次ページの写真は五月九日大会終了後の記念撮影で、七條邸の玄関脇で写したものである。中央和服姿が七條氏、その右が鶴田主幹、その右が近代将棋社長永井英明氏。参会した人でこの写真に出ていない方も多数あります

★写真は焼増し可能と思いません。

岩木錦太郎氏の方へお問合せ下さい。

さい。

◇5月7日(金) スモッグ

私(主幹) 上京、岩木、門脇両氏と秋葉原ラジオ会館に七條兼三氏を訪問。話—ビール—打合せ—ビール、夕景料亭へ。あとはムニャ〜。

◇5月8日(土) さつき晴れ

上野の森の樹々のみどりとさわやかな五月の空気がささやき合う。

正午ころよりポツ〜と同志参集、夕景三十有五名に達す。

一升瓶十本とビール数十本が(三美人のお酌で)カラになるころはすでに夜のとばり重し。されど将棋、麻雀と皆さんのタフぶり。会員同士の々座り相撲々などあり、歓声、爆笑時計の小さい針が②のところであくビをしているのに気付いた人はあまりなかった。

◇5月9日(日) さつき晴れ

改めて説かん。

◇5月10日11日(月火) くもり

10日七條邸泊。11日帰名。

模様

◇5月9日午後1時開会。

◇開会の辞(岩木) 主催者代表挨拶(七條) 来賓挨拶(綿貫、永井)

◇祝辞、祝電披露

祝辞—小西逸生

祝電—二上八段、安達栄司、市田霧

山、伊藤三雄、桑原辰雄、武

田春信、宮本兼利

◇主幹挨拶 約二十分

◇参加者自己紹介 約二時間

いつもながらこの自己紹介が一斑味がある。各人それぞれの個性が出て趣きあり。

◇看寿賞、同人作家、東西對抗オールスター戦などの表彰と受賞者挨拶。

◇小委員会(法人化と看寿賞選考)

◇連将棋

◇懸賞詰将棋

◇万才三唱、記念撮影

◇閉会の辞(小林)



面めん

◇5月8、9日を通じ。敬称略。

- ◇東京 安達康二、岩田茂、今井透、泉栄一、伊藤明治、今井清作、石川修、伊藤暢胤、遠藤喜久夫、大沢一宗、岡田敏、越智信義、門脇芳雄、加賀孝志、亀井久次、上林精二、北原義治、北村潔、久保田寛、黒川一郎、小林豊、小林辰五郎（子息共）、駒場和男、柴田英男、志村定信、七條兼三、助川勇、関根文男、武井正一、寺田昭二、中西稔、永井英明、西田尚史、二階堂清一郎、松垣浩男、平川修、肥塚光夫、藤井国夫、福田尚、堀隆興、三吉一郎、村尾貞二、森敏宏、山口義徳、吉田甚三、綿貫英助、若林進、渡辺稔
- ◇神奈川 飯田厚、伊藤孝雄、大場直行、木村詢、田辺元昭、富沢尊儀、七尾春美、早川茂男
- ◇群馬 新井正道
- ◇埼玉 岩木錦太郎、海老原辰夫

- ◇茨城 坂巻義郎、坂巻桂治、関直之
- ◇栃木 中村康雄、渡辺喜久雄
- ◇千葉 小峯秀夫、須貝敏雄、長山敬之助、山崎喜久雄
- ◇北海道 古関三雄
- ◇静岡 前藤浩
- ◇新潟 石沢孝治、斉藤健作、高橋守中村五郎
- ◇長野 中島利男
- ◇愛知 石川幸雄、鹿間郁夫、鶴田諸兄、橋本守正
- ◇岐阜 篠田義雄
- ◇京都 井島寛
- ◇大阪 北川明、長谷繁蔵、伴康哉、横田進一
- ◇奈良 山本勝士
- ◇兵庫 大橋雅道、西村英二、森田昌弘、計九十人

寄贈者芳名—敬称略

- 銘酒 五斗 麦酒 拾打 七條兼三
 キレイドコロ 拾数名 七條兼三
 楽団（五人編成） 七條兼三

オリンピック記念貨三組 七條兼三
 ケネディ記念銀貨二枚 七條兼三
 明治時代一円銀貨三枚 七條兼三
 （右三件は詰バラ賞品に使用）

明治時代一円銀貨二枚 七條兼三
 五体字類など拾冊 七條兼三
 ガスライター拾個 七條兼三
 映画入場券二十枚 七條兼三
 プラ駒五組 柴田昭彦
 銘菓一折 坂巻義郎

詰将棋集 一部 石沢孝治
 宝石入など四点 長山敬之助
 さくらペンタッチ六打 西村英二
 木村詰将棋二百部 久保田寛
 （右三件は詰バラ発展のため使用）
 金苞封 佐々木秀雄
 金苞封 市田霧山
 銘酒 永井英明

（設備投資？七條兼三）
 タタミがえ、夜具、座布団、放送設備、磁石式大盤など

★五月九日の全詰連全国大会は空前の盛会で、幹事一同も御世話の仕甲斐があったと喜んで居ります。大会の次第は六月号の主幹の報告通りですが、少しこぼれ話を書いてみましょう。

■まずこの会を開くに当って、御世話頂いた七條兼三氏の御厚意と御尽力は誠に筆舌に尽し難いもので、会場提供から準備万端、宿泊の御世話、会場設備（マイク、録音機、磁石将棋盤等）莫大な賞品、清酒特級五斗、麦酒拾打

全 国 大 会 こぼれ話

その他キレイドコロ拾数名、楽団……これが全部一人持ちなのだから驚き入った次第。空前の大後援者……。

■世話人の準備会もすべて七條氏の費用持ちで、美人のお酌付きときているのですから恐れ入ります。（こんな準備会ならなんでも……コラッ）おまけに6月19日、温泉で幹事一同の慰労会をやる、とのおコトバ。一同ただもう恐縮の一手あるのみ。■感激したのは、遠地から実に多くの

方が参加して下さったこと。北海道の古関三雄氏は実に片道30時間ノを乗り継いで、遠路はるばるの参加でした。40位のオジさんを予想して居たら、20何才かの眉目秀麗の青年でビックリ。

■全国から祝辞の中で異色は、北海道トリオ（柏川、山田、鳥越の三氏）の

声の祝辞で、テープが寄せられました。再生中、故障で鳥越氏の祝辞が途中で切れてしまひ残念。

■参加者に高校生や中学生まであり、心強く思いましたが、異色は小林辰五郎氏の息子さん。まだ中一？だそうですが、小林氏「うちの息子ももう中学位は詰めます。私の詰められない問題でも教えられたりして……私のあとつぎに宜しく」と紹介され、拍手喝采。

■近将の永井社長は知人の結婚式の席から駆け付けられ、詰連に温い祝辞を下さる。主幹とは初対面の由。詰パラの功績を大いに讃えれば、主幹も「たまには近将も買ってあげて下さい」と一席。両巨頭応しゆうの一暮……。

■詰連法人化の熱心な推進者の吉田甚三氏は、オールスター戦楯を持参され前夜祭に参加。「詰将棋は非常に頭脳の健康に良く、私は詰将棋の極意で幾

つかの事業に成功して来ました。」とウレシイお話。

■会場を見廻すと、白いビラが目につく。小林豊氏の苦心作で

◇詰棋人に悪人なし

◇健康増進に詰将棋を

◇詰棋人なら娘をやるう

等々。ホントカネ。

■連将棋は学生組対社会人組各四名で対局。井島寛氏が棋譜を読み上げ、長谷繁蔵氏が大盤に中継する。熱戦でしたが時間の都合で途中より30秒将棋となり、対局者にはお気の毒でした。

■七條氏のお骨折りで、当日録音したテープが編集部にあります。番外には前夜祭の余興、七條氏の詩吟（聞きしに勝る見事なもの）や主幹の「高原千里」なども入っており、興味深々たるものです。テープを貸し出すそうですから、希望者は主幹まで往復ハガキで

■当日、万年筆を忘れられた人あり。お心当りの方は主幹まで。

■当日は予約して欠席が約20名、飛び入りが十数名で、受け付はテンヤワンヤ。おかげで幹事は喜んだり、気をもんだり、目を白黒でした。